

岸田国士 劇作家・文化運動家。パリで演劇を学んでデビュー、{文学座}を創設・指導し、知識人全体をリードした。

きしだくにお

帝国議会始・1890 = 東京四谷で、紀州藩士末裔の陸軍軍人岸田庄蔵の長男に生まれる。

日清戦争始・1894 = 4歳：

八幡製鉄始・1897 = 7歳：四谷尋常小学校に入学。

Bushidou・1899 = **9歳**：父の転勤に伴ない、名古屋の棟業尋常小学校に転校。

教科書疑獄・1902 = 12歳：名古屋第二高等小学校に入学。

父が軍人だったことから、

日露戦争始・1904 = 14歳：名古屋地方陸軍幼年学校に入り、

日露戦争終・1905 = 15歳：

韓国反日暴動1907 = 17歳：東京の中央陸軍幼年学校に進学するが、

アヲチ 創刊・1908 = **18歳**：

軍隊・軍人生活に反撥を覚え、フランス文学に興味を抱くようになり、

韓国併合・1910 = 20歳：卒業し、久留米歩兵第四十八連隊に配属後、陸軍士官学校へ進学。

明治天皇没・1912 = 22歳：卒業して、少尉に任官するが、

第一次大戦始1914 = 24歳：父の勤当を受けながら、休職して、上京。

ロシア革命・1917 = **27歳**：東大仏文科選科に入学。

大暴落・1920 = 30歳：在学中に、パリ留学、ビュー・コロンビエ座のJ.コポーのもとで演劇を学んで、

原敬首相暗殺1921 = 31歳：

水平社結成・1922 = 32歳：父が死去したため、

関東大震災・1923 = 33歳：帰国。山本有三に紹介され、

護憲三派圧勝1924 = 34歳：戯曲「古い玩具」でデビュー、つづいて「チロルの秋」、

治安維持法・1925 = 35歳：*「ぶらんこ」「紙風船」を発表して、一躍劇界の寵児となり、

日本時代始・1926 = **36歳**：

金融恐慌・1927 = 37歳：米子出身の村川秋子と結婚。

世界恐慌・1929 = 39歳：後に童話作家となる長女衿子が誕生。「牛山ホテル」はじめ、以後10年間に50余編の戯曲を書く。

海軍軍縮条約1930 = 40歳：後に俳優となる次女今日子が誕生。「由利旗江」、

満州事変・1931 = 41歳：

五一五事件・1932 = 42歳：明治大学に新設された文芸科教授に就任。

築地小劇場と対立する立場に立って新劇運動にも加わり、

芥川直木賞始1935 = **45歳**：

二二六事件・1936 = 46歳：「現代演劇論」に収められるエッセーを著した。「双面神」のほか、

日中戦争始・1937 = 47歳：*顧問を務めていた{築地座}を発展的に解消し、{文学座}を創設。

健保+総動員 1938 = 48歳：_ベストセラーとなった「暖流」など、社会的視野をもった独特な新聞小説も書いている。

大政翼賛会・1940 = 50歳：大政翼賛会が設立されるや、軍部への防波堤という意味で多くの知識人に推されて、文化部長に就任。

日米開戦・1941 = 51歳：

・・・・・・1942 = 52歳：退任。

年金+総武装 1944 = **54歳**：

敗戦・1945 = 55歳：

新憲法施行・1947 = 57歳：公職追放となる。

極東裁判決・1948 = 58歳：*ユニークな日本人論「日本人とはなにか」をもって文壇に返り咲き、「速水女塾」、

三大事件・1949 = 59歳：今日子が文学座に入所。「椎茸と雄弁」、

朝鮮戦争始・1950 = 60歳：「道遠からん」などは、戦後演劇を代表する作品である。あらゆる芸術ジャンルの人々を糾合すべく、{雲の会}を結成して、文学立体化運動をはじめたが、

独立回復・1951 = 61歳：

メーデー事件・1952 = 62歳：*小説執筆中に、脳神経麻痺を起こして、入院、

TV放送始・1953 = **63歳**：芸術院会員。小説「罪の花束」。_一時回復したものの、

自衛隊発足・1954 = 64歳：{文学座}上演の「どん底」の演出に携わって、_舞台稽古中、発作が起こり、没した。

没後に岸田演劇賞("新劇"岸田戯曲賞)が設けられた。ルナール、カサノーバの翻訳も知られている。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネット、